

TOUR DE HOKKAIDO 2007 NEWS

第1ステージ 2007年9月13日発行

個人区間順位

| 順位 | 名前 | チーム | タイム |
|----|------------|-------------|---------|
| 1 | ヘンリ・ヴェルネル | ド イ ツ | 2:35:36 |
| 2 | ミッチェル・ドッカー | オーストラリア | + 0:01 |
| 3 | パク スンベック | 韓 国 | + 0:01 |
| 4 | 宮 澤 崇 史 | NIPPO梅丹 | + 0:01 |
| 5 | 飯 島 誠 | プリヂストン・アンカー | + 0:01 |
| 6 | メディ・ソウラビ | イ ラ ン | + 0:01 |

個人ポイント賞順位

| 順位 | 名前 | チーム | ポイント |
|----|------------|-------------|------|
| 1 | ヘンリ・ヴェルネル | ド イ ツ | 25 |
| 2 | ミッチェル・ドッカー | オーストラリア | 20 |
| 3 | パク スンベック | 韓 国 | 16 |
| 4 | 宮 澤 崇 史 | NIPPO梅丹 | 14 |
| 5 | 飯 島 誠 | プリヂストン・アンカー | 12 |
| 6 | メディ・ソウラビ | イ ラ ン | 10 |

団体総合順位

| 順位 | チーム名 | タイム |
|----|-------------|---------|
| 1 | NIPPO梅丹 | 7:46:51 |
| 2 | イ ラ ン | +0:00 |
| 3 | シ マ ノ | +0:00 |
| 4 | オーストラリア | +0:14 |
| 5 | ミ ヤ タ | +0:24 |
| 6 | プリヂストン・アンカー | +3:27 |

個人総合時間順位

| 順位 | 名前 | チーム | タイム |
|----|------------|---------|---------|
| 1 | ヘンリ・ヴェルネル | ド イ ツ | 2:35:30 |
| 2 | ミッチェル・ドッカー | オーストラリア | + 0:03 |
| 3 | パク スンベック | 韓 国 | + 0:05 |
| 4 | 新 城 幸 也 | NIPPO梅丹 | + 0:05 |
| 5 | 角 令 央 奈 | 鹿屋体育大学 | + 0:06 |
| 6 | 宮 澤 崇 史 | NIPPO梅丹 | + 0:07 |

個人山岳賞順位

| 順位 | 名前 | チーム | ポイント |
|----|--------------|---------|------|
| 1 | 土 井 雪 広 | シ マ ノ | 10 |
| 2 | S.レザエイ・モスタファ | イ ラ ン | 8 |
| 3 | 増 田 成 幸 | ミ ヤ タ | 6 |
| 4 | ヘンリ・ヴェルネル | ド イ ツ | 4 |
| 5 | 松 田 究 | 早稲田大学 | 3 |
| 6 | 新 城 幸 也 | NIPPO梅丹 | 2 |

テキストライブ配信中!

ツール・ド・北海道のレースの様子をテキストライブで配信中。携帯からも閲覧できます。



PC: <http://www.cyclingtime.com>
携帯: <http://mobile.cyclingtime.com>



1st Stage アタックの掛け合いはゴールスプリントへ。ヴェルネルが勝利

第1ステージは小樽市総合博物館前をスタートし、積丹半島の中央部、トーマル峠を越えて、岩内町運動公園前にゴールする105km。出走は99名、定刻9時15分にスタート。市内をパレード後、正式スタートとなった。

ファーストアタックは14回目の出場となる福島晋一(NIPPO梅丹)。タイム差40秒ほどになるが、一人なので集団は逃げを容認。その後、次々アタックの掛け合いが始まる。

20kmを過ぎ、晴れの天気が一変、雨が降ってくる。ホットスポットに向けて集団はペースアップ。最初のホットスポットまで1km地点で新城幸也(NIPPO梅丹)がアタック。それに辻善光(マトリックス)、角令央奈(鹿屋体育大学)が続く。ホットスポットは、辻、新城、角の順で通過。



ゴール前で飛び出し第1ステージ優勝を飾ったヘンリ・ヴェルネル(ドイツ)が個人総合時間でもトップに

集団はオーストラリアがコントロールし、その中からスチュアート・ショウ(オーストラリア)が抜け出す。長いトンネルを抜けると強い雨が降っている。タイム差は2分15秒まで広がる。六志内橋を渡った直後から上りが始まり、スチュアートは集団に吸収。KOMは土井雪広(シマノ)、

S.レザエイ・モスタファ(イラン)、増田成幸(ミヤタ)の順で通過。

先頭31人。その後1分差で集団が続く。先頭集団は、ヘンリ・ヴェルネル(ドイツ)、昨年の覇者である西谷泰治、別府匠(愛三工業)、土井、狩野、野寺(シマノ)、新城、宮澤崇史(NIPPO梅丹)、飯島誠(アンカー)、パク スンベック(韓国)、オーストラリアチームの3人など有力選手を含む31人。トーマル峠の下りで4人が落車した。

ゴールを前にして先頭から岡崎和也(NIPPO)、畑中勇介(アンカー)がアタックするも吸収。先頭集団から13人が抜け出し、さらにスピードアップ。13人は吸収されてゴールスプリントへ。

最後はドイツのヴェルネルがひとりで抜け出し1秒差をつけ優勝。2位ミッチェル・ドッカー(オーストラリア)、3位パクとなる。

Next Stage 第1ステージの勝者ヴェルネルがリーダージャージを守りきるか

第1ステージは21人が1秒遅れでゴールした。個人総合リーダーは1秒差をつけて優勝したヴェルネル(ドイツ)。ゴールのボーナスタイム6秒を加えて7秒差のトップに立った。2位は3秒差でミッチェル・ドッカー(オーストラリア)。3位は5秒差でパク スンベック(韓国)。そして同じく5秒差につけているのが、中間ホットスポットを2位で通過して、2秒のボーナスタイムを獲得した新城幸也(NIPPO梅丹)だ。第1ステージを終わって、個人総合時間争いは、21秒以内に30人の選手がひしめいている。

第2ステージは第1ステージのゴール地点になっていた岩内町運動公園内を走

る個人タイムトライアル。公園内の野球場と陸上競技場の周りを走る1.3kmで争われる。テクニカルなコーナリングが勝敗を分けることになるが、距離が短いだけに、大きなタイム差をつけることは難しいだろう。

昨年は2.5kmのタイムトライアルが行なわれ、今年参加している中での最高位は4位の西谷泰治(愛三工業)。西谷は03、04年にもタイムトライアルを制して、この種目を得意としている。2連覇に向けて、このタイムトライアルで、勢いをつけたいところ。また、昨年5位の岡崎和也(NIPPO梅丹)はタイムトライアルの日本チャンピオンでもあり、気

合いが入っているはずだ。

第1ステージの疲れをみせない選手たちの走りをご覧あれ。



本日、誕生日を迎えた福島晋一選手にMOTO審判からの祝福。このあとファーストアタックをかける



TOUR DE HOKKAIDO

<http://www.tour-de-hokkaido.or.jp>